

SUBARU REPORT

87th 中間報告書 2017.4.1 ▶ 2017.9.30



特集

1. NEW MODEL ASCENT
2. TOKYO MOTOR SHOW 2017



株主の皆様へ

(ご注意) 本報告書は、2017年11月21日時点の事実関係に基づき記載しております。その後の状況の変化などについては反映されておりませんのでご了承ください。

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第87期(2017年度)の中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

この度は、当社製自動車の完成検査における不適切な事案につきまして、お客様・株主様をはじめ、多くの関係者の皆様に対し、多大なご不安とご心配をお掛けいたしましたこと、改めてお詫び申し上げます。

国土交通省平成29年9月29日付文書「日産自動車の完成検査の不正事案を受けた確認の実施について」に基づき社内調査を行った結果、当社において、完成検査業務を実施するにあたり、不適切な事案があることを確認し、10月30日に国土交通省へ報告いたしました。

今後につきましては、国土交通省平成29年10月30日付文書「型式指定に関する業務等の改善について」に基づき、不適切な完成検査の過去からの運用状況等、事実関係の詳細を調査し再発防止策を検討してまいります。なお、既に販売・登録された当社製自動車についての市場措置につきましては、11月より順次対応させていただいております。

さて、2017年度上期の業績につきましては、自動車連結売上台数が53.1万台と6期連続で過去最高を記録する一方で、エアバッグ関連費用の特別損失計上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年に対し減益となりました。

2017年度通期の自動車連結売上台数につきましては、6期連続で過去最高となる見通しであるものの、米国ならびに中国市場の競争激化などによる足元の販売状況に鑑み、106.8万台(前年比+0.3%、前回計画比-3.4%)に修正いたしました。2017年度通期の業績計画につきましては、為替レート変動による影

響などがあるものの、計画台数の修正を織り込み、売上高3兆3,800億円、営業利益3,800億円、経常利益3,820億円、親会社株主に帰属する当期純利益2,070億円にそれぞれ修正いたしました。

株主の皆様への還元政策につきましては、毎期の業績、投資計画、経営環境を勘案しながら、継続的な配当を基本としつつ、業績連動の考え方を取り入れております。連結配当性向につきましては、30%~50%を基本とし、諸状況を勘案のうえ決定いたします。今回の中間配当につきましては、1株当たりの配当を72円といたしました。また、期末の配当予想につきましても、中間配当と同じく72円といたします。これにより、1株当たりの年間配当金は、昨年度実績と同様の144円となる予定でございます。今回の業績見通しでは連結配当性向は50%を若干超えてまいります。エアバッグ関連費用の特別損失計上などの諸状況を勘案の結果、減配することなく、株主の皆様への安定した配当を継続したいとの考えでございます。

この度の完成検査における不適切事案を重く受け止め、深く反省し、お客様からのSUBARUに対する信頼を真に取り戻すべく、グループ一丸となって努力してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月



代表取締役社長

吉永泰之

業績の概況・財務ハイライト

業績の概況

全世界売上台数は、前年同期比3.8%増の53.1万台となり、北米売上台数は9期連続、全世界販売台数および海外売上台数は、6期連続で第2四半期累計期間としては、過去最高となりました。

売上高は、為替変動に伴う売り上げの増加および自動車売上台数の増加などにより、前年同期比6.9%増の1兆6,863億円となりました。

利益面は、米国の金利上昇に伴う販売費の増加などがあったものの、為替変動および自動車売上構成の改善などにより、営業利益は前年同期比1.7%増の2,121億円となりましたが、経常利益は前年同期比6.6%減の2,127億円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、エアバッグ関連損失引当金として813億円の特別損失を計上したことなどにより、前年同期比48.1%減の850億円となりました。

連結財務ハイライト (第2四半期累計:2017年4月1日~2017年9月30日)

売上高

1兆6,863億円

前年同期比 6.9% 増

営業利益

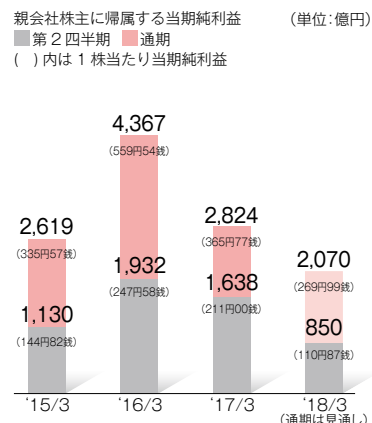
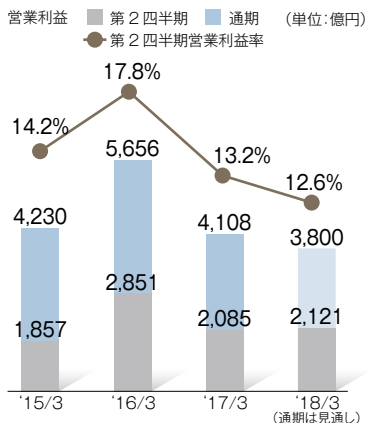
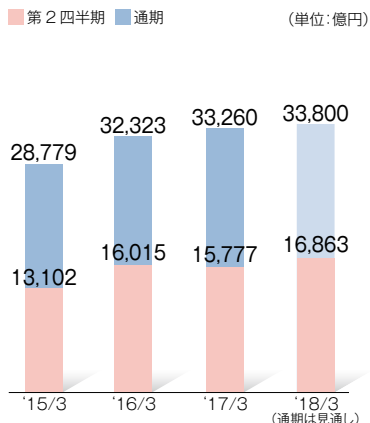
2,121億円

前年同期比 1.7% 増

親会社株主に帰属する四半期純利益

850億円

前年同期比 48.1% 減



セグメント別業績報告

自動車事業部門

売上台数

53.1万台

前年同期比 3.7% 増

国内では「インプレッサ」と「SUBARU XV」、海外では北米を中心に「インプレッサ」と「フォレスター」が販売を牽引。売上台数は、国内で前年同期比21.0%増の8.2万台、北米で前年同期比2.4%増の36.4万台、その他の海外地域を含めた全世界の売上台数は、前年同期比3.8%増の53.1万台となり、第2四半期連結累計期間として過去最高となりました。

売上高

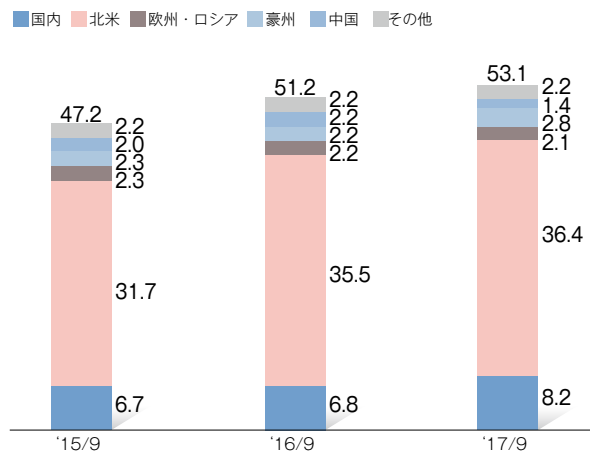
1兆6,000億円

前年同期比 7.2% 増

売上高は、前年同期比7.2%増の1兆6,000億円となりました。セグメント利益は、米国の金利上昇に伴う販売費の増加などがあったものの、為替変動および自動車売上構成の改善などにより、前年同期比1.0%増の2,053億円となりました。

売上台数の推移

(単位:万台)



売上高・セグメント利益の推移

(単位:億円)

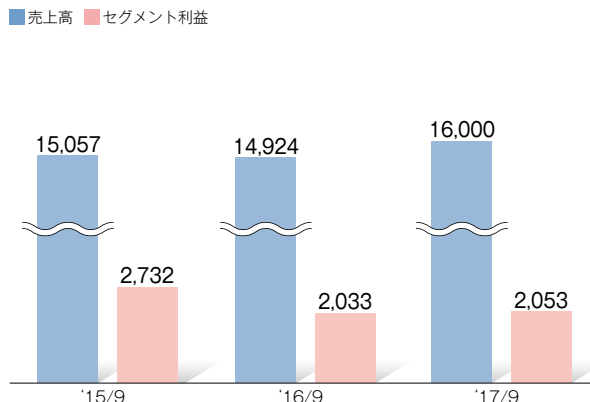




PHOTO: SUBARU XV 2.0i-S EyeSight



PHOTO: Impreza Premium (米国仕様)

航空宇宙部門

売上高

680億円

前年同期比 1.9% 増

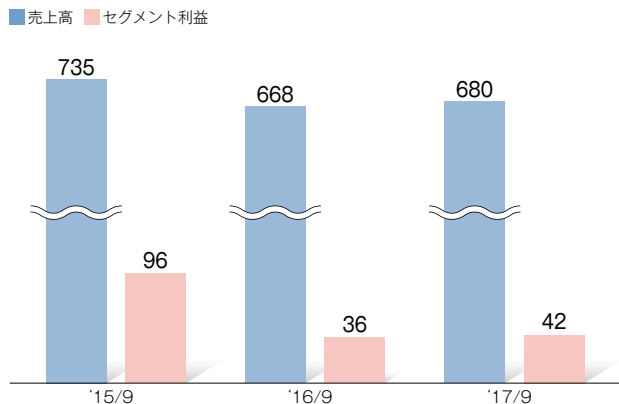


PHOTO: 412EP発展型機(イメージ)

防衛省向け製品では、新多用途ヘリコプター「UH-X」の契約に基づく開発本格化などにより増収、民間向け製品では、「ボーイング777」の生産機数減少により減収となりました。売上高は前年同期比1.9%増の680億円、セグメント利益も前年同期比16.0%増の42億円となりました。

売上高・セグメント利益の推移

(単位: 億円)



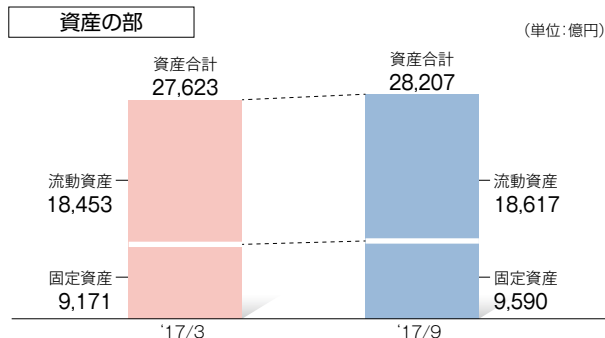
詳細な財務情報は、ホームページに掲載の各種IR資料をご利用ください。

<https://www.subaru.co.jp/ir/library/>



連結財務諸表

○連結貸借対照表の概要

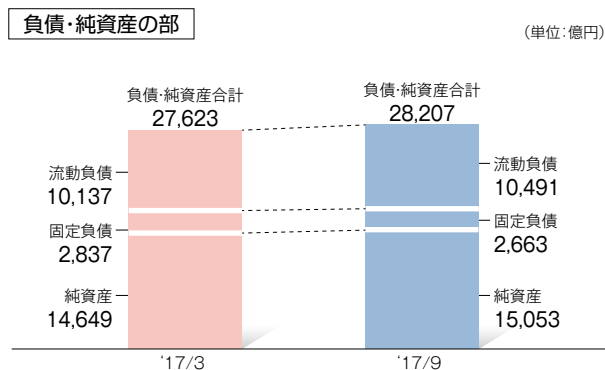


Point

総資産

前期比 **584億円 増** ↑

現金及び預金と有価証券を合わせた手許資金の増加261億円、有形固定資産の増加238億円などです。



Point

負債

前期比 **180億円 増** ↑

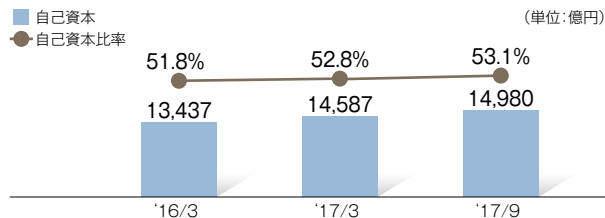
支払手形及び買掛金と電子記録債務を合わせた仕入債務の減少532億円、1年内返済予定を含めた長期借入金の減少392億円、未払法人税等の増加126億円、エアバッグ関連損失引当金の増加813億円などです。

純資産

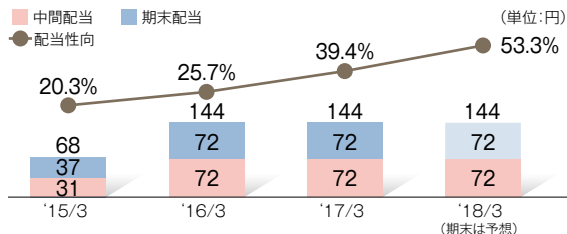
前期比 **404億円 増** ↑

利益剰余金の増加302億円などです。

○自己資本／自己資本比率

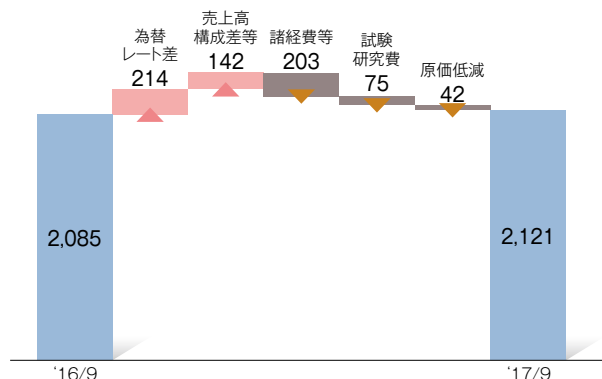


○1株当たり年間配当金／連結配当性向



○営業利益増減要因(前年同期比)

(単位:億円)



● Point ●

為替レート差

US\$: +239億円:前年同期107円/\$、当第2四半期111円/\$、4円/\$の円安。

売上構成差等

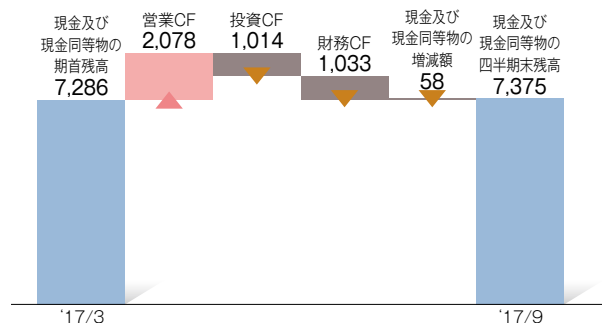
国内 +159億円:販売台数の増加と高グレード車比率の増加などです。
海外 △ 75億円:販売台数は増加したものの、高収益車の販売比率が低下し減少です。

諸経費等

製造固定費△116億円:外製型費および固定加工費の増加です。
販売管理費△257億円:米国の金利上昇によるローン、リース費用の増加などです。
クレーム費+170億円:エアバッグ関連のリコール費用の減少などです。

○連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:億円)



● Point ●

'17/9現金及び現金同等物(資金)

7,375億円

営業活動CF

税金等調整前四半期純利益の計上1,285億円、エアバッグ関連損失引当金の増加813億円などです。

投資活動CF

固定資産の取得による支出760億円などです。

財務活動CF

配当金の支払552億円、長期借入金の返済による支出392億円などです。

詳細な財務情報は、ホームページに掲載の各種IR資料をご利用ください。

<https://www.subaru.co.jp/ir/library/>



特集1 | NEW MODEL ASCENT

北米市場専用新型3列SUV

「ASCENT」 世界初公開

ASCENT(アセント)は、SUBARUが北米市場でのさらなる成長を追求し、特にファミリーユーザーに向けて新規開発した3列ミッドサイズSUVです。SUBARU共通のデザインフィロソフィー“DYNAMIC x SOLID”の下、3列ミッドサイズSUVとして重視される機能性を強調し、存在感のある内外装デザインを構築。ラインアップで最大となるボディサイズを活かし、7名・8名乗車いずれの仕様でもゆとりのある室内空間を実現しました。家族全員が移動を愉しむことができるように、様々なユーティリティを充実しつつ、スバルグローバルプラットフォームを採用することで得た高いボディ剛性によって、振動騒音を抑えた快適な移動空間としています。



カテゴリトップの室内スペース・ユーティリティ



■ ファミリーユースのために徹底的に造り込んだパッケージング

子育てファミリー層のお客様に求められる使いやすさや快適さを追求し、3列目シートも含め、いずれの座席においても気持ち良く過ごせるように、室内空間を造り込みました。

■ ファミリーユーザー目線で徹底させた室内装備

家族全員で愉しく使えるSUVとして、利便性と快適性を高める室内装備を充実させました。

スマートフォンとの連携を可能にするインフォテインメントシステムなどに加え、キャビンビューミラー、パノラミックサンルーフ、サンシェード、前席左右・後席独立温度調整機能付きフルオートエアコン、ベンチレーションシートをSUBARUとして初採用。

「際立とう2020」のモデル計画

中期経営ビジョン「際立とう2020」で掲げた“SUBARUブランドを磨く取り組み”の一環として開発した「スバルグローバルプラットフォーム」を3列SUV仕様に拡張。当社の重点市場である北米市場にて、さらなる顧客層の拡大を狙い、ASCENTにも採用します。

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年～
モデル計画	スバルグローバルプラットフォーム				
	インプレッサ	SUBARU XV	ASCENT フルモデルチェンジ	フルモデルチェンジ	フルモデルチェンジ



スバルグローバルプラットフォームを採用、クラストップの快適性と安全性を実現

スバルグローバルプラットフォームの採用による車体剛性向上により、スムーズさや気持ち良さといった「感性の領域」において、質感の高い走りを実現。クラストップの危険回避性能と3列目シートも含めた乗員保護を実現。

アイサイトを全車標準装備、予防安全性能を追求

SUBARU独自の運転支援システム「アイサイト」とアイサイトアシストモニターを全車に標準装備。あらゆるシーンにおいて安全で楽しいドライブを提供する、SUBARUの総合安全の考え方のもと、クラストップの安全性能を実現しました。

新開発2.4ℓ 4気筒水平対向直噴ターボエンジンを採用

新開発2.4ℓ 4気筒水平対向直噴ターボエンジンを採用し、小排気量ながらも競合車の3.5ℓ 6気筒エンジンと同等以上のスムーズな加速性能を実現。さらにリニアトロニックの採用により、6気筒エンジン車に迫る出力・牽引性能を提供するとともに、十分な燃料タンク容量(73ℓ)を確保し、クラストップレベルの航続距離を実現。

ASCENTの主な仕様（参考値）

- ボディサイズ（全長×全幅×全高）：4,998 × 1,930 × 1,819 mm[ルーフレールを除いた全高 1,766mm]
- ホイールベース：2,890 mm ■ 地上高：220 mm
- エンジン：FA24型 2.4ℓ 水平対向4気筒DOHC 直噴ターボ ■ 排気量：2,387cc
- ボア・ストローク：94 × 86mm ■ 出力：260hp / 5600rpm ■ トルク：375Nm/2000-4800rpm
- トランスミッション：スポーツリニアトロニック[フル電子制御自動無断変速(CVT)] ■ 駆動方式：シンメトリカルAWD
- タイヤサイズ：245/60 R18、245/50 R20 ■ 乗車定員：7名 / 8名

・ASCENTは、米国生産拠点Subaru of Indiana Automotive, Inc.にて生産し、2018年に北米市場での販売を開始する予定です。

・写真はすべてASCENTプロトタイプによるイメージで、実際の仕様とは異なる場合があります。

特集2 | TOKYO MOTOR SHOW 2017

東京モーターショー・レポート

New SUBARU Story

モノをつくる会社から、笑顔をつくる会社へ

2017年10月27日～11月5日、東京ビッグサイトにおいて第45回東京モーターショー2017が開催されました。本年4月1日から社名を「株式会社SUBARU」に変更して初めてとなる本モーターショーに、コンセプトカーやモータースポーツ車両など全10車種を出展しました。さらに、来場されるお客様に笑顔をもたらす演出やSUBARUを身近に感じてもらえる演出をご用意。SUBARUの提供する価値「安心と楽しさ」の将来像や世界観を、ブース全体で表現しました。



低重心で前進感のある硬質なボディと力強く張り出すフェンダーの造形により、躍動感と力強さを表現しています。

SUBARU
VIZIV PERFORMANCE CONCEPT

ワールドプレミア

参考出品

SUBARUがお客様にお届けする安心で楽しいクルマづくりの将来ビジョンを具現化したスポーツセダンタイプのコンセプトモデル。将来の自動運転技術普及期を見据え、アイサイトを核とした高度運転支援

技術を、運転を積極的に楽しみたいくなるスポーツセダンボディに搭載することで、SUBARUらしい安心で楽しいドライビングの世界観を提示します。



S208

ジャパンプレミア



SUBARUとSTIが共同してエンジンや足回りを専用開発し、外装・内装にも専用装備を追加した、ハイパフォーマンスカーのトップエンドモデルです。

SUBARU BRZ STI Sport

ジャパンプレミア



走り・スタイル・質感すべてにSTIのDNAを込めた、SUBARU BRZの最上級モデル。ボディ剛性向上や足回りの専用チューニングにより、ドライバーの意のままに動くハンドリング性能や上質な乗り味を実現しました。



プレスブリーフィングでは吉永泰之社長が、SUBARU だけが提供できる価値として、「安心と楽しさ」を改めて強調した。



IMPREZA FUTURE SPORT CONCEPT

参考出品

新しいスポーツ価値を提案するデザインコンセプトカー。低重心でダイナミックな形状の前後バンパー、スポーティーで存在感のあるセンターマフラーは運転する楽しさを想起させます。また、ボディーカラーのイエローパールとコントラストの効いたインテリアコーディネートにより先進的で都会的なキャラクターを表現しました。



SUBARU XV FUN ADVENTURE CONCEPT

参考出品

SUBARU XVの特徴であるタフでラジッドなデザインをさらに強調。アウトドアアクティビティを存分に愉しめるSUBARU XVの世界観を、専用オフロードタイヤとホイールアーチ部分の力強いデザインのクラッシングにより表現しました。ボディーカラーには大自然の中でも力強く輝くイエローメタリックを採用しています。

レガシィ アウトバック Limited Smart Edition

参考出品



専用グリルやウルトラスエードシートなどといった、アウトバックならではの気品を感じさせる内外装デザインに加え、8インチの大型ナビゲーションシステムを装着しました。

SUBARU BRZ GT300

SUPER GT参戦車両



今年のSUPER GT (GT300クラス)参戦モデル。水平対向ボクサーエンジンの熱効率の改善、軽量化、空力性能の改善、慣性モーメントの向上など大幅な改良を加えています。

活動レポート

北海道・美深試験場の「高度運転支援技術テストコース」完成 ～2017年11月より本格的な運用を開始～

当社は、スバル研究実験センター美深試験場（北海道中川郡美深町）に、高度運転支援技術のためのテストコースを新設しました。今後の運転支援技術の高度化に向けて、2017年11月より運用を開始しました。

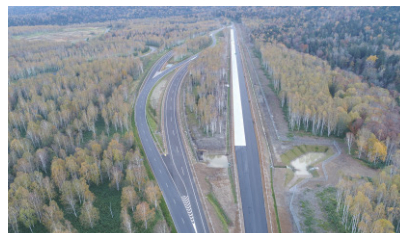
美深試験場は、寒冷地における性能評価や雪上試験などを目的とした開発拠点として、1995年に開設しました。総敷地面積361ヘクタールの中に、各種試験路やハンドリング路のほか、2003年には高速周回路を増設し、実際の公道に見立てたテストコースとして、通年に渡り様々な試験を実施しています。

今回新設した美深試験場の「高度運転支援技術テストコース」は、既設のコースをベースに、より実際の道路に近づけるように見直して建設しました。概要は以下の通りです。

- ・高速周回路 全長4.2km（既存の高速周回路を実際の道路に近づけるよう改修）
都市間高速道路本線にある「緩やかなカーブ」の新設
都市間高速道路のインターチェンジやサービスエリアを想定した「分合流路」の新設
4車線の道路を想定した「多車線路」の新設
北米のフリーウェイを模した「コンクリート舗装路」の新設

- ・市街地路
片側1車線・対面通行を想定した市街地路を新設
交差点での右折レーンの有無や導流帯など、現実に即した形状の道路を再現
欧州を中心に普及している「ラウンドアバウト（円形交差点）」を再現

- ・その他の試験設備
「総合試験路」の拡張と機能追加、ならびに場内道路を拡張
併せて、作業や執務を行う「業務棟」を建て直しました



高速道路の緩やかなカーブ



市街地路

当社は、中期経営ビジョンで掲げる「SUBARUブランドを磨く」取り組みの一環として、総合安全NO.1ブランドを目指し技術開発を進めています。なかでも、運転支援システム「アイサイト」の進化に注力しており、今年8月には新機能「ツーリングアシスト」を全車標準装備したレヴォーグ、WRX S4を日本国内で発売しました。

今回新設したテストコースを活用して、高度化していく運転支援技術に必要な技術開発をさらに加速させます。2020年には「アイサイト」(ステレオカメラ)にデジタルマップ、GPS、レーダーなどミニマムなデバイスを追加することで、自動車線変更機能などを実現します^{※1}。また、交差点での自動車、自転車、歩行者との衝突事故を防止する技術の実現も目指します^{※2}。

当社は、これからも個性豊かな魅力ある確かなクルマづくりを貫き、お客様に「安心と愉しさ」を提供していきます。

※1 2015年5月8日、2016年3月7日 公表済

※2 2016年3月7日 公表済

2018年型 SUBARU XV、WRXが米国IIHSの2017年安全評価で 最高評価「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得 ～アイサイトを装着したSUBARU全車がTSP+を獲得～

02

この度、北米地区で現在販売している2018年型SUBARU XV※1とWRXが、IIHS※2(道路安全保険協会)が行う最新の2017年の安全性評価において、最高評価の「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得しました。2018年型レガシィ、アウトバック、フォレスター、インプレッサに続く今回の受賞により、アイサイトを装備したSUBARU全車がTSP+を獲得したことになります。

TSPを受賞するには前・側・後面・スモールオーバーラップ衝突、ロールオーバー(車両転覆)耐衝撃性能試験すべてにおいて最良の乗客保護性能を持ち合わせた車として最高の「Good」を獲得するとともに、前面衝突予防評価において「Superior」または「Advanced」を獲得することが要求されます。さらにTSP+を受賞するには、ヘッドライト性能評価における「Good」、「Acceptable」のいずれかの獲得が必要になります。

全面改良モデルとなる2018年型SUBARU XVはすべての耐衝突・衝撃性能試験において最高評価「Good」を獲得するとともに、アイサイトの装備により、衝突予防性能試験において、時速12マイル・時速25マイルいずれの速度域においても衝突を未然に回避し、最高評価「Superior」を獲得しました。

2018年型WRXはハイビームアシスト機能付LEDヘッドライト装備車がヘッドライト性能試験において最高評価「Good」を獲得しました。

当社は、ブランドステートメントである“Confidence in Motion”を通じて、SUBARUならではの「安心と愉しさ」の提案を掲げています。この「安心と愉しさ」を支える重要な要素である「安全」を、ALL-AROUND SAFETYの考え方の基に、0次安全、アクティブセイフティ、プリクラッシュセイフティ、パッシブセイフティの各技術進化により実現していきます。



2018年型 SUBARU XV (米国仕様)



2018年型 WRX (米国仕様)

※1 北米市場名クrostレック

※2 Insurance Institute for Highway Safety
(米国保険業界の非営利団体)



会社概要

(2017年9月30日現在)

○会社概要

社名	株式会社SUBARU (英名: SUBARU CORPORATION)	従業員数	連結 33,651名 単独 15,200名
設立	1953年(昭和28年)7月15日	主要製品	普通・小型自動車、航空機、汎用エンジン
資本金	153,795百万円	本社	〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号 03-6447-8000(代表)

○主な事業所

部門	名称	所在地	主な事業
自動車事業部門	群馬製作所 本工場	群馬県太田市	自動車の開発・生産
	矢島工場	群馬県太田市	自動車の生産
	大泉工場	群馬県邑楽郡大泉町	自動車用エンジン・トランスミッションの生産
	東京事業所	東京都三鷹市	自動車用エンジン・トランスミッションの開発
	スバル研究実験センター	栃木県佐野市、北海道中川郡美深町	自動車の開発
	埼玉製作所	埼玉県北本市	汎用エンジンの生産
航空宇宙カンパニー	宇都宮製作所	栃木県宇都宮市	航空機の開発・生産
	半田工場	愛知県半田市	航空機を生産
	半田西工場	愛知県半田市	航空機を生産

○取締役・監査役

取締役会長	近藤 潤	取締役専務執行役員	岡田 稔明	常勤監査役	馬淵 晃
代表取締役社長	吉永 泰之	取締役常務執行役員	加藤 洋一	常勤監査役	灰本 周三
代表取締役専務執行役員	日月 丈志	社外取締役	駒村 義範	社外監査役	三田 慎一
取締役専務執行役員	笠井 雅博	社外取締役	青山 繁弘	社外監査役	阿部 康行

会社に関する詳しい情報は企業ホームページをご覧ください。

<https://www.subaru.co.jp/>



自動車に関する詳しい情報は商品ホームページをご覧ください。

<https://www.subaru.jp/>



株式の状況

(2017年9月30日現在)

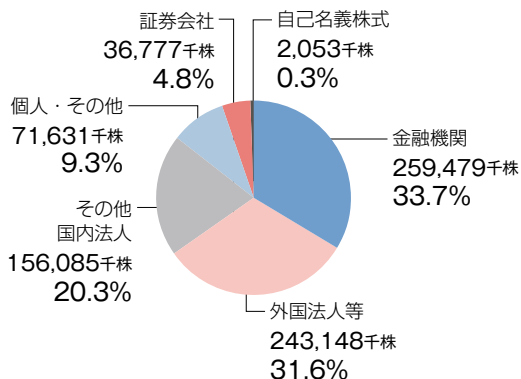
○株式の総数

発行済株式の総数 769,175,873株

[注] 当四半期中の増減 ±0株

株主数 100,799名

所有者別状況



大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.82
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	52,931	6.90
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	47,158	6.15
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	11,722	1.53
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	10,135	1.32
株式会社みずほ銀行	10,078	1.31
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	10,046	1.31
MIZUHO SECURITIES ASIA LIMITED - CLIENT A/C	9,902	1.29
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	9,860	1.29
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	9,726	1.27

注 持株比率は、自己株式を除いて算出しております。

○株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日

配当基準日 期末配当:3月31日、中間配当:9月30日

定時株主総会 6月中

単元株式数 100株

公告方法 電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

[公告掲載URL]

<https://www.subaru.co.jp/ir/stock/announcement.html>

証券コード 7270

株主名簿管理人および
特別口座管理機関 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 0120-288-324(フリーダイヤル)

住所変更、配当金お受け取り方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増

証券会社にお持ちの場合 お取引の証券会社にお申し出ください

証券会社にお持ちでない場合(特別口座) みずほ信託銀行株式会社 全国各支店、みずほ証券株式会社 本店および全国各支店にお申し出ください。

未払配当金のお支払

みずほ信託銀行株式会社にお申し出ください。0120-288-324(フリーダイヤル)



PHOTO:ボーイング787-9(ボーイング社提供) ※当社はボーイング787の中央翼を開発・製造しています。

CSRレポートをご覧ください

2017年4月に社名を富士重工業株式会社から株式会社SUBARUへ変更しました。社名とブランドを統一することにより、企業の質とブランドをさらに磨いてまいります。当社は本業を通してより良い社会、環境づくりに貢献し、持続可能な社会の実現に向けてCSR活動に取り組んでいます。本レポートは、ステークホルダーの皆様当社の企業価値について、より理解を深めていただくことを目的とし、1年間のCSR活動をホームページに掲載しております。

Web版のCSRレポートは下記のサイトをご覧ください。
<https://www.subaru.co.jp/csr/>



PDF版のCSRレポートは下記のサイトをご覧ください。
https://www.subaru.co.jp/csr/report/pdf/2017/csr_report_2017_all.pdf



株式会社SUBARU

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号

電話 03-6447-8000

ホームページ[株主・投資家の皆様へ] <https://www.subaru.co.jp/ir/index.html>

証券コード: 7270

表紙PHOTO: ASCENT(北米専用車・プロトタイプ) アビスブルー・パール

